体験を通して学んだこと

網走市立第三中学校　三年
北上　唯莉（きたかみ　ゆいり）

私がこの派遣事業へ行きたいと思ったきっかけは、「沖縄の戦い」という本を中学二年生の頃に読んだことです。その本を読んだ私は強い衝撃を受けました。こんなことが日本で起きていたことが信じられませんでした。「平和とは何だろう」と考えを巡らせていた私に答えをくれたのは、派遣事業の二日目に伺った平和祈念資料館で沖縄戦を体験した久保田暁さんという方でした。久保田さんはまず初めに平和とはたくさんあるということを教えていただきました。例えば、家族が揃って寝る家がある。通う学校がある。仲良く助け合い生活できる。夢や目標がある。命が大切にされるなど、あげればきりがないほどありました。私は平和とは身近なところにたくさんあるということに気付かされました。これらの平和がなくなるときが戦争が起きたときだと仰っていました。そして沖縄戦について教えていただきました。

本で見ていたときは自分たちの置かれている環境と違いすぎて現実味がなく、物語のように感じていましたが、この講話を聞いて現実味が増しました。久保田さんが仰っていたことでとても印象に残っている話は子どもが日本兵に食べ物を取られそうになり、抵抗して日本兵に暴力をされて食べ物を取られるという話です。その人は後に「戦争だからあの人はああなってしまった。あの人は悪くない。戦争が悪いんだ」と言っていたそうです。この話を聞いて自分だったら恨んでしまうのに、この人は戦争が悪いんだと言えるところがとても素敵で、このような考えが平和に繋がるんだなと思いました。また、戦争は深い傷を残し、人を悪魔にしてしまう。つまり何も残らないということを講話を通して学びました。戦争は二度とやってはいけないと改めて痛感しました。

ひめゆりの塔では、私と同年代の子たちがこんなにも強く戦ったんだと思い胸が強く締め付けられたり、彼女たちは普通の女学生だったのに戦争が彼女たちの日常を奪ったんだと思うと上手く言葉で表せないほどの悲しみが浮かびました。その後のワークショップでは「自分たちが身近にできる平和を続けていくためにできることは」という議題で話し合いをし、選挙に参加することや沖縄戦を後世に伝えていくことなどが挙げられました。ワークショップを通してみんな色々な考えがあり、それを認め合って行くことが平和に繋がることだと思いました。

他にも糸満市では色々なことを体験しました。一日目にガリガリーおおしろでサーターアンダギー作りをしました。とても暖かく迎えていただきました。沖縄の家庭料理も食べましたが初めて食べる料理が多く美味しかったです。サーターアンダギーも初めて食べましたが、ドーナツを凝縮した感じでとても美味しかったです。三日目の美々ビーチでのサバニ体験ではみんなで息を合わせることが大変でしたが、みんなとの仲が深まり、とても楽しい体験になりました。琉球ガラス村でのコップ作りでは飲み口の部分を丸く広げることが難しかったですが、職人の方が丁寧に教えてくれたお陰で上手に作ることができました。

この派遣事業で友人ができ、共に様々な体験をしていくうちに、これは平和じゃないとできないのだなと改めて実感することができたので、当たり前に感謝して命を大切に、世界平和を祈り、争いや対立を生むことなく協力や共感を育んでいくことが私たち一人ひとりができる大切なことだと思います。